

## 事業成果報告書

1. 個人または団体名(団体の場合は代表者名も記入)	
洲崎 圭子	(代表者名: )
2. 研究または活動のテーマ(課題名)	
『産まない女に夜明けはこない—ロサリオ・カステリャノス研究』(仮)の出版	
3. 助成額	
500,000 円	
4. 実施期間	
2020 年 7 月 ~ 2021 年 6 月	
5. 実施状況	
2020 年	
7 月中旬	出版社と打ち合わせ。今後のスケジュール確認
7 月下旬	表紙の写真について調整を開始 本文の加筆・修正作業
8 月上旬	入稿
10 月下旬	初校戻し
2021 年	
4 月上旬	内容・体裁について出版社と話し合い。索引作成
5 月上旬	第二校戻し。帯文案を提出
5 月中旬	表紙・本文で使用する写真について最終調整
5 月下旬	発刊が当初予定から 1 か月遅れる見込みであることを事務局に連絡、承認
6 月上旬	最終稿受け取り
6 月中旬	出版社と最終の打ち合わせ。校了
6 月 30 日	世織書房から刊行
6. 事業成果と自己評価	
(1)事業成果	
『《産まない女》に夜明けはこない—ロサリオ・カステリャノス研究』の出版 A/5 判、上製、縦一段、286 頁、定価:3,800 円(税別) 発行日:2021 年 6 月 30 日、発行所:株式会社 世織書房	
(2)自己評価	
表紙の写真について、所有者(メキシコ在住)との調整に時間を要したこともあり当初スケジ	

ルールを変更したが、貴重なポートレイトの提供を得て、無事刊行することができた。本書は、2017 年にお茶の水女子大学に提出した博士論文を加筆修正したものであり、「第三世界」と呼ばれたメキシコにおいて活躍した女性作家ロサリオ・カステリャノス(1925～1974)の、メキシコ文学史のなかにおけるフェミニスト作家としての功績を再評価する試みである。上層階級の知識人として政権寄りの立場から、あるいはまた先住民女性の視点から、疎外される女性たちをまなざし、書くことを通じてジェンダー平等の達成を訴え続けたのがカステリャノスであった。ラテンアメリカ発のフェミニズム思想を模索し続けた女性作家を取り上げることにより、大家とされる男性作家研究に偏りがちな日本におけるフェミニズム文学批評の新たな展開を拓き、「南」に位置する地域に対する一面的ともいえる視点の解消につながる可能性を有している。

女性が社会進出し、一部では同姓婚や性・氏名の変更が自由にできるといった配慮がすすんでいるメキシコやラテンアメリカの状況が、日本において伝えられる機会は少ない。カステリャノスのフェミニズム実践である小説作品群を取り上げ分析した本書の成果は、当地のみならず、今日の日本社会における女性の生きづらさにアプローチする上でも示唆に富む。社会において周縁化された女性登場人物に焦点化することで、独身女性や不妊女性の苦悩を顕在化させたカステリャノスの思想を新たに評価した本書は、21 世紀の現代に生きる女性のエンパワメントを促すことが期待される。

なお、メキシコにかかわる情報を広く発信している月刊誌『旅たび東洋 Tabi Tabi TOYO』において、本書紹介の特集記事が組まれることが決定している。

## 7. 提出成果物

出版助成を得て刊行された書籍

書籍名:『《産まない女》に夜明けはこない—ロサリオ・カステリャノス研究』(世織書房)

著 者:洲崎圭子

